

翔通信 no4

平成 29 年 7 月 1 日
泉第 2 チェリーこども園

梅雨入り宣言が発表されましたが、例年より晴天に恵まれてきたため、梅雨本来の空気が感じられるようになってまいりました。プール開きを終え、園の子どもたちはプール遊び、水遊びを存分に楽しんでおります。クラスの担任も子どもたちと水遊びを楽しんでおりますが、大人になってからの水遊びは子ども時代のそれとはまた違い解放感と気持ちよさがあり格別です！保育の仕事の特権ですね！

さて、先月 6 月 17 日に開催した“マルシェ in こども園”ですが終わってみれば、出店していただいた店舗は昨年第 1 回目の倍、15 店舗以上（共同出店含む）の方々に出店していただくことができ、来場者も非常に多く賑わい、楽しんでいただくことができました。

このマルシェの一つのねらいとして“地域に隠れた才能の発揮の場”にしていくというものも含まれています。今回は、掲示を見て申込んでいただいたり、口コミなどで出店希望のお問い合わせをたくさんいただきうれしい悲鳴を上げておりましたが、こうして出店希望者が増え、地域にその才能が知れ渡り、つながっていくことが、正に“地域の隠れた才能の発揮”となってゆきます。そうした意味においてもこのマルシェがますます活性化していくことを願っております。

フェイスブック（※1）ページを作成いたしました！

この度、泉第 2 チェリーこども園のフェイスブックページを作成いたしました！各種イベントに関する情報や、園児募集、子育てに関する情報などを発信していく予定です。”泉第 2 チェリーこども園”をより多くの方に知っていただき、グローバルな視点で乳幼児期の保育・教育を考え、共有していければと考えております。また、地域に隠れた子育てに悩みを抱える方にもネット媒体を活用してつながり、一助となることも期待しております。

下記 URL を検索していただくか、フェイスブックトップページで「泉第 2 チェリーこども園」と検索してもページを確認できます。

たくさんの「いいね!」「フォロー」お待ちしております！！

<https://www.facebook.com/izumidai2cherry>

※1 Facebook（フェイスブック）は、Facebook, Inc.が運営するインターネット上のソーシャル・ネットワーキング・サービス（SNS）である

フェイスブックトップページから「泉第 2 チェリーこども園」と検索する場合は下記アイコンが目です！

泉第 2
チェリー
こども園



類似アカウントもありますのでこちらのアイコンページをクリックしてくださいね！

駐車場での飛び出し注意！！

園の駐車場にて園児の飛び出しが危険というご指摘をいただきました。ご指摘の通り非常に危険です。当園の駐車場はご利用の皆様が自己責任のもと安全に利用していただくことで成り立っております。避難訓練や園行事等で危険性の高い場合は園側で誘導や封鎖などの措置を取りますが、基本的に職員が警備するなどはいたしません。車との事故は生死に関わりますので、お子様の手をつなぐ、きちんと静止させるなど、保護者の方がお子様の安全を守れるようにしてください。

第1特集

幼児の非認知能力を育てる 保育者を、どう育成する？

子どもたちの非認知能力を十分に育てられているかどうかは、園によって大きく異なるのが実情のようです。園全体の保育の質を高めるためには、保育者の資質・能力を高める必要があります。保育者不足も問題とされる状況下で、どのように保育者の資質向上を図ればよいかを考えました。

インタビュー

保育記録と園内研修を活用して 園全体で非認知能力を育む

非認知能力を育むためには、子ども一人ひとりの興味や意欲を見取り、適切な環境を提供することが欠かせません。そうした質の高い保育を実践するために、保育者の資質・能力をどう高めていくことが望まれるのでしょうか。聖心女子大学の河邊貴子先生が具体的な方法を提示します。

非認知能力の観点から 各国で保育実践の見直しを

認知能力とは、数値化できるいわゆる学力のことで、非認知能力とはそれ以外のもの、「社会情緒的能力」を指します。安定して自分を発揮する力や、がんばる力、他者との関係を築く力です。

日本の幼児教育は伝統的に心情・意欲・態度を育てることを目指してきましたから、「どうして今さら非認知能力が目されるのか」と感じる保育者もいるでしょう。非認知能力に関わるOECD（経済協力開発機構）調査のベースにある研究は、認知能力に加えて非認知能力が高いと、社会的・経済的に成功しやすいと指摘しています。そのことも、日本の保育者は経験的に理解し、「後伸び」する力などと言いつつ

した。

ですから、日本の保育者にとって非認知能力はなじみのある概念と言えますが、これまでに十分に伸ばせていたかを注意深く振り返る必要があります。

特に昨今、読み書きや英会話など認知能力の育成を幼児教育に求める保護者が増えています。将来的な不安要素が多く、社会全体に閉塞感が強まり、「できるだけ早く手を打ちたい」という保護者の心理が働いているからでしょう。

そんな風潮を受け、認知能力の育成を売りにする園が増えていると感じます。また、**保育者が認定こども園に修行し、「教育」を本実させたい**という思いから**選った加配の教育に力を入れるケースも見受けま**す。

こうした現状を考えると、非認知



聖心女子大学文学部教授
河邊貴子
かわべ たかこ

聖心女子大学文学部教授、東京都公立幼稚園で12年間教諭として幼児教育に関わった経験をもつ、2008年改訂の幼稚園教育要領解説作成協力者、中央教育審議会専門委員（初等中等教育分科会）などを歴任。著書に『子どもこころー幼児が生まれてから始まる時間』（春秋社）など。

左の記事は”ベネッセ教育総合研究所”の「これからの幼児教育」2016年夏版の特集記事です。“非認知能力”という言葉はなかなか聞きなれないかもしれませんが、幼児期の教育を考えるうえで非常に重要なワードです。端的に言ってしまえば学校で行う教科教育が“認知能力”をより必要とするのに対し、その土台となる能力と言えます。それは心情や意欲、態度といった言葉で言い換えることができ、この土台があって始めて認知能力が高まる、あるいは“認知的な行為を進んで行えるようになる”といった方が適切でしょうか。それが育つ最も適した時期が幼稚園、保育園、こども園に通っている乳幼児なのです。いたずらに英語、算数、文字の読み書きなどを教え込んでも逆効果であり、育てるべき順序や優位性があるということです。保育者だけでなく、日本の教育の文化としてこうした考え方が根付いてほしいと感じます。

心に響く、そしてハッとさせられる詩がありましたのでご紹介いたします。

なおる

指しやぶりをなおす方法

夜泣きをなおす方法

おねしよをなおす方法

昔からたくさんあります
だけどもあれもこれもやってみても

「ピタリ」となおす方法がありません

もし「ピタリ」となおる方法があるなら

みんなやってみるはずだから

指しやぶりが夜泣きもオネシヨも

問題にならないはず

なおす方法がたくさんあるということは

なおす方法が無いのと同じ

それは時期が来れば

いつの間にかなおっていく

ということなのです。

巷野悟郎 著書

「赤ちゃんが書かせてくれた～小児科医からママへの手紙～」より